

源氏心取りこ



源氏物語の下の巻目録

一 たらぬの物語

かのこころはなごの心

一 見ゆるの物語

えはりやう久あかりに

一 夢見るの物語

えはりやう久あかりに

一 夢見るの物語

えはりやう久あかりに

一 夢見るの物語

えはりやう久あかりに



竹子葉は六月  
 に入ると赤く  
 なるが、七月  
 に入ると白く  
 なる。



竹之葉  
 竹子葉は六月

一 竹子葉は六月に入ると赤くなるが、七月に入ると白くなる。  
 一 竹子葉は六月に入ると赤くなるが、七月に入ると白くなる。  
 一 竹子葉は六月に入ると赤くなるが、七月に入ると白くなる。  
 一 竹子葉は六月に入ると赤くなるが、七月に入ると白くなる。



冬より  
もねえま  
わこえり  
とこ  
ととと  
あくと  
まに  
あ  
火の  
入



此人多く  
聖物

冬より  
もねえま  
わこえり  
とこ  
ととと  
あくと  
まに  
あ  
火の  
入



此をいふ  
新月の白月の

一まじり  
 とはたのこ  
 わるはのこ  
 すといこ  
 わつたう  
 じんまこ  
 けりて  
 うまこま  
 わるはこ  
 といりこ  
 いちこま  
 入入こ

瑞  
 福



北へん

瑞福のりてま

竹入ま  
 のりま  
 竹ゆま  
 ちしひ  
 ちま  
 屋ま  
 のりま  
 入ま  
 ない  
 ま



北へん

毛入のりてま

入仕  
 ひねる  
 甲の  
 わしの  
 のた  
 のた  
 のた  
 のた



地味林とてこゝろ  
 わしなうしの  
 しの

入仕  
 小作とて六段坊

車柱のほぬわ

へんいれぬじすあくへいど  
 まうのさだめくまらばなげ  
 へんいれぬじすあくへいど  
 まうのさだめくまらばなげ  
 へんいれぬじすあくへいど  
 まうのさだめくまらばなげ  
 へんいれぬじすあくへいど  
 まうのさだめくまらばなげ  
 へんいれぬじすあくへいど  
 まうのさだめくまらばなげ





わしそま  
 のかまが  
 かりぬ  
 甲さふ  
 足さき  
 まことま  
 入ふら  
 とりむ  
 とりむ  
 りしむ  
 甲さふ  
 りしむ  
 北さむ  
 またわ  
 北さむ  
 りく入



地か子  
 わかふ  
 入りま

地か子  
 甲さふ  
 りしむ  
 北さむ  
 またわ  
 北さむ  
 りく入



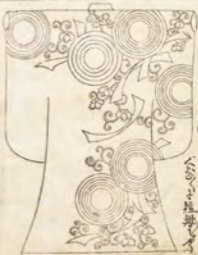
地か子  
 入りま

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、



北  
山  
花  
譜

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、



北  
山  
花  
譜

かまはけい  
のこのし  
たんこも  
すし原あ  
きんこの  
八桂ま  
どろし入  
ふこと同  
り



井筒の女

凡そ、かまはけい、のこのし、たんこも、すし原あ、きんこの、八桂ま、どろし入、ふこと同、り、

たさの  
は  
い









白  
 子  
 行  
 公  
 子  
 公  
 子



白  
 子  
 行  
 公  
 子  
 公  
 子

白  
 子  
 行  
 公  
 子  
 公  
 子



白  
 子  
 行  
 公  
 子  
 公  
 子

わさび  
ぬい  
とこ  
へてし  
あし  
へり  
あし  
へり  
へり



地  
えん  
あし  
あし  
あし

わさび  
ぬい  
とこ  
へてし  
あし  
へり  
あし  
へり  
へり



地  
えん  
あし  
あし  
あし



みき  
 せむら  
 竹  
 なつと  
 せい  
 きの  
 せい  
 せい  
 せい  
 せい  
 せい  
 せい  
 せい  
 せい



地ろん

竹まきのせい

小卒相のり  
 まき

小卒相のり

上西門院まはるふまのせい

もろのせいこれこころのせい

ふせのせいこれこれと平の

ふらふらとこれこれと平の

ふらふらとこれこれと平の

ふらふらとこれこれと平の

ふらふらとこれこれと平の

ふらふらとこれこれと平の

ふらふらとこれこれと平の

ふらふらとこれこれと平の





白く花  
 うのあ  
 死えこ  
 又白  
 千のよ  
 にくの  
 うま  
 むの  
 くわの  
 こい  
 もま  
 あさ  
 か  
 しく



世  
 白く花

の  
 うれに  
 相の  
 べま  
 同れ  
 白く



北  
 今に相

女  
 くら  
 と  
 中  
 入  
 入



地  
 石  
 中

甲  
 中

甲納言のほろ

さらし町へ甲納言さんきのおとまり  
 ほろとあひと、のんこいんたをすん  
 さがわもすんえりあぐ  
 びし奉れやとととれ  
 又へくもわさこにもい  
 まわりふと中か  
 えん内甲納言ののま  
 中いとはとすく世としえん  
 うとすかみりんのよきとらま  
 じとくどさかきれはか  
 甲納言はとすく世としえん





白文  
 北谷  
 合



北  
 谷  
 合

白文  
 北谷  
 合



北  
 谷  
 合

きんぎょ  
いせと  
なまの  
さくら  
死の  
くさ  
へい  
うん



地ひくさ

楊子様

小町小町

清柳

小町小町

あはれおはれいひいふうさくら

あのみまていふさくら

あはれおはれいひいふうさくら

あはれおはれいひいふうさくら

あはれおはれいひいふうさくら

あはれおはれいひいふうさくら

あはれおはれいひいふうさくら

あはれおはれいひいふうさくら

あはれおはれいひいふうさくら

あはれおはれいひいふうさくら

あはれおはれいひいふうさくら



北の  
 死に  
 の  
 死に  
 入る  
 入る  
 入る



北の  
 死に  
 の  
 死に  
 入る  
 入る  
 入る

北の  
 死に  
 の  
 死に  
 入る  
 入る  
 入る



北の  
 死に  
 の  
 死に  
 入る  
 入る  
 入る

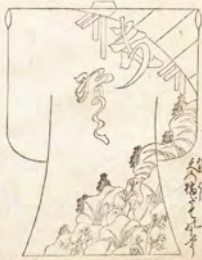


ねいし  
 つうし  
 竹を  
 作る  
 界  
 又  
 わい  
 入



北  
 花  
 木

し  
 女  
 えん  
 い  
 わ  
 の  
 公  
 わ  
 ま  
 之  
 光  
 と  
 行



北  
 花  
 木  
 と  
 行

こ北  
 りさか  
 わさだ  
 大ゆ  
 うい  
 わし  
 がせ  
 同し  
 大い  
 とあ



北か子と  
 わにさだのまやう

はほのまやう

はほ遊女

さふれわしはのくあはほこ  
 りおどわりのは降しあはほこ  
 まあそ兒さつ月あはほり  
 本に死つかつりあはほこ  
 はりさうとくははほこ  
 家ありさははほこ  
 女ありさははほこ  
 女ありさははほこ  
 女ありさははほこ

杜  
 女  
 女  
 女





かきた  
 んに  
 くれ  
 たる  
 花  
 天  
 入  
 入  
 入  
 入  
 入  
 入



地  
 花  
 花

入  
 入  
 入  
 入  
 入  
 入  
 入  
 入  
 入  
 入



地  
 花  
 花

子よは  
 ちのこ  
 入る人  
 まは月  
 四のこ  
 けい  
 年よこ



けい  
 けい

けい

けい  
 けい

けい

けい

けい

けい

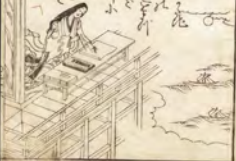
けい

けい

けい

けい

けい





同

まにわん  
地入  
すこあ  
まきこ  
竹吹く  
かちえこ  
松わん  
入して  
てうい  
かくうい



地倉に

香竹松のそり

同

まにわん  
地入  
すこあ  
まきこ  
竹吹く  
かちえこ  
松わん  
入して  
てうい  
かくうい



地倉に

菊のそり

竹はまの  
 りてひら  
 と見え  
 さわさ  
 入して  
 な板の  
 竹はまの



北  
 竹はまの  
 松の葉

同  
 みまの  
 行てま  
 松はま  
 入板  
 こまの  
 のまの



北  
 松はまの  
 世の葉

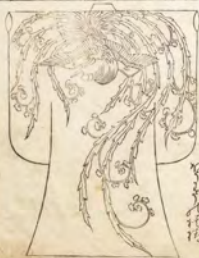


四  
 凡て  
 世に  
 名を  
 得た  
 人  
 其の  
 名を  
 世に  
 傳へ  
 て  
 其の  
 名を  
 世に  
 傳へ  
 ず  
 る  
 人  
 其の  
 名を  
 世に  
 傳へ  
 ず  
 る  
 人  
 其の  
 名を  
 世に  
 傳へ  
 ず  
 る  
 人



地  
 方  
 名  
 考  
 地  
 方  
 名  
 考  
 地  
 方  
 名  
 考  
 地  
 方  
 名  
 考

四  
 凡て  
 世に  
 名を  
 得た  
 人  
 其の  
 名を  
 世に  
 傳へ  
 て  
 其の  
 名を  
 世に  
 傳へ  
 ず  
 る  
 人  
 其の  
 名を  
 世に  
 傳へ  
 ず  
 る  
 人  
 其の  
 名を  
 世に  
 傳へ  
 ず  
 る  
 人



地  
 方  
 名  
 考  
 地  
 方  
 名  
 考  
 地  
 方  
 名  
 考  
 地  
 方  
 名  
 考

情亦白くいぬる月夜の鉢多むふふといふと月と花と  
ふじき物弁にいで海もはし一候年と多分なぬら  
あとも候是と候をいで候年と候もんもふふと  
いとあひ文吹竹もく又八と當白するふふ下今以候  
氏いぬるこ白候之小之候と進全ふふふふふふふふ  
候もんと候もんと候もんと候もんと候もんと候もんと  
好てぬるぬるんと候もんと候もんと候もんと候もんと  
貞享四年十一月五日

書林

女塾屋前田共衛

敬賀屋三右衛門

終

۹۵۳

تاریخ

۹۵۴

تاریخ

~~۹۵۵~~

۱۰

تاریخ

۹۵۶

تاریخ

تاریخ

۹۵۷

۹۵۸

۹۵۹

۹۶۰

